

新しい未来へ

宮崎国際大学
開学30周年

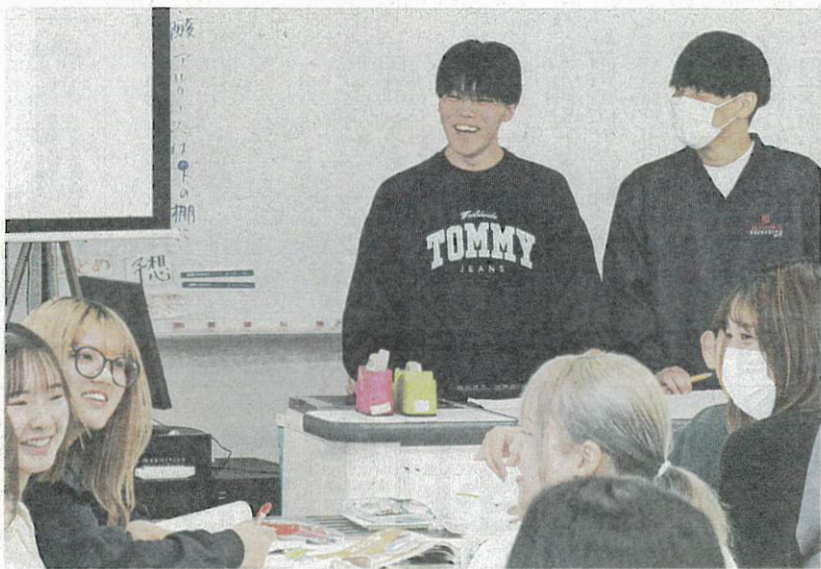
③ Miyazaki International University

2014年度に新設された宮崎国際大の教育学部は昨年度、小学校教員採用試験の現役合格率100%を初めて達成した。本年度も過去最多となる27人が合格（合格率約96%）し、同学部の河原国男教授は「非常に大きな成果を上げることができた」と胸を張る。設立から11年目を迎える中、全国的にも高い合格率を誇る

教育学部

教員採用 高い合格率

県内外へ多くの人材輩出



学生による研究内容の発表や質疑応答が行われた教育学部「理科教育法Ⅰ」の授業

学生・職員紹介



山下 愛実さん

教育学部講師

保育士の養成が専門で「保育原理」などの講義を担当している。学生の多くは「子どもと関わる仕事に就きたい」という思いを明確にして入学しており、

保育士の養成が専門で「保育原理」などの講義を担当している。

学生の多くは「子どもと関わる仕事に就きたい」という思いを明確にして入学しており、

保育士の養成が専門で「保育原理」などの講義を担当している。

学生の多くは「子どもと関わる仕事に就きたい」という思いを明確にして入学しており、

保育士の養成が専門で「保育原理」などの講義を担当している。

学生の多くは「子どもと関わる仕事に就きたい」という思いを明確にして入学しており、

保育士の養成が専門で「保育原理」などの講義を担当している。

る学部へと成長している。同学部には「児童教育学科」（定員50人）の1学科があり、卒業後の進路は保育士など子どもたちの教育や保育に関わる職業が中心。中でも小学校の教員を目指す学生が大半を占めており、同大学は採用試験の合格率向上や質の高い教員の育成に力を入れてきた。

具体的には「科目ごとの成績を基に算出する、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度での評価を徹底している」と河原教授。教育実習を履修できる要件をGPA2.6以上とし、学力が基準に満たない学生には追加の試験を課すなど厳格に対応する一方、GPAが高い優秀な学生には特待制度も設けている。

また、採用する側である県教委などのニーズや時代の変化にに応じ、教育カリキュラムの見直しや改善を常に実施。現場での学びも重視し、県教委主催の「ひなた教師塾」といった教育実習以外の体験的な活動に、4年間で計96時間以上参加することを求めている。

1学年50人という少人数

のメリットも最大限生かす。授業ではきめの細かい指導が行われ、同学部2年の甲斐瑞季さん（19）は延岡市出身。IIは履修する授業で、研究成果を発表する際、「準備段階から担当の先生が疑問点などへ丁寧に対応してくれた」。

また、教員を志す同級生全員が同じクラスで授業を受けることも多く「みんなの姿に『私も頑張ろう』と刺激をもらっている」と甲斐さん。学級担任のような役割を果たす「アドバイザー教員」も学年ごとに2人ずつ配置し、進路指導はもちろん、欠席が続いている学生をフォローするなど一人一人に向き合ったサポートに努めている。

これまで県内外へ多くの人材を輩出してきた同学部。河原教授は「福田巨博学部長のリーダーシップの下、さまざまな改革に取り組んできた結果」と振り返りつつ、「今後はただ教員になるだけではなく、指導教諭を務められるような質の高い教員を目指す学生を育てていきたい」と将来を見据えていた。